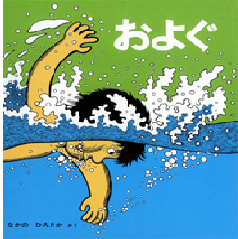




# 4歳児クラス8月 第3回 「およぐ」

保…保育士 講…講師 ★…保育士が準備する教材

## シアタータイム

読み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>「じゃばーん」「ぎぶーん」「すーいすい」など、擬音を取り入れていきいきと表現する。</li> <li>お話の最後に絵本の表紙と裏表紙を広げて、男の子が泳いでいる場面を見せながら、「ぱしゃぱしゃ」「ばたばた」などの動きの模倣をするのもよい。</li> </ul>	教材	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>★絵本</li> <li>★iPad(シアターセット)</li> </ul>	保育士の役割	
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の表紙を見せながら「この子はなにしていると思う」と、問いかける。</li> <li>「みんなは泳げるかな？ どうして人間は泳げるのかな」等聞き、この本を読むとわかるよ…お話を始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会話をする</li> </ul>	

## がくしゅうタイム

活動①	ねらい	実験	実験を通して予想→実験→結果のプロセスを楽しむことができる	
設問	<b>水に浮くものと沈むものの実験をしましょう。水を入れたバケツに具体物を入れ、浮くか沈むか実験をしましょう。</b>			
つなぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>保：「やあやあみなさんこんにちは、私は実験博士じゃ」実験博士登場</li> </ul>			教材
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>講：「こんにちは、何の実験博士ですか？」</li> <li>保：「浮き沈みの博士だ」</li> <li>講：「浮き沈み？よくわからないのですが…」</li> <li>保：「じゃあこれを使って実験してみたまえ」等で、水槽や品物を受け取り博士は退室する。</li> <li>※子ども達によく見えるようにフォーメーションを考える。</li> <li>• P1に描かれている物を1つずつバケツに入れて実験する。物を見せて、浮くか沈むか自分の考えを言う。</li> <li>• 全員で「じっけん！」と声をそろえて言い物を水の中に具体物を入れる。</li> <li>※予想（自分がどう思うかを考える）→実験（実験を通して確認する）→結果（実際にどうだったかを改めて確認する）一連の流れが大切です</li> <li>• 答えが合っていた、間違っていたということばかりにとらわれすぎないように配慮する。</li> <li>• 時間があればお部屋にある他の具体物も使って実験する。</li> <li>• 1円玉はゆっくり置くと浮きますが、ポンと入れると沈みます。ティッシュは始め浮くが時間がたつと沈みます。事前にいろいろ試しておくが良い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>透明ケース（水槽等）</li> <li>ペットボトル</li> <li>割り箸</li> <li>スーパーボール</li> <li>ビー玉</li> <li>1円玉</li> <li>石</li> <li>タオル等</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>• 博士登場</li> <li>• 実験のフォロー</li> <li>• 子どものフォロー</li> <li>• 一緒に発言する</li> <li>• 賞賛</li> </ul>
活動②	ねらい	知識	浮く沈むを理解し印をすることができる	
設問	<b>水に浮くものはどれでしょう。また、水に沈むものはどれでしょう。浮くものには○、沈むものには×をつけましょう。</b>			
つなぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>講：「浮いたり沈んだりの実験楽しかったね」</li> </ul>			教材
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>講：「そうだ！おうちの人にも教えてあげたいから、浮くものに○、沈むものに×の印をつけておこう！」プリントを配布。</li> <li>• 鉛筆配布し名称を確認し始める。</li> <li>※シナリオでは活動②にこちらのプリントを入れていますが、実験の前に「予想」でプリントを行う形でも良い。または実験をしながら1つずつ予想と結果を記入する形でもよい。但し、答えが合っていた、間違っていたということばかりにとらわれすぎないように配慮する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>P1</li> <li>鉛筆</li> <li>赤鉛筆・ハンコ</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>• ハテナ袋提示</li> <li>• 子どものフォロー</li> <li>• 賞賛</li> </ul>

<b>活動③</b>		<b>ねらい</b>	<b>表現</b>	泳ぐまねや息を止め等を楽しむことができる	
<b>設問</b>	みんなで泳ぐ真似（即応動作）をしましょう。犬かき、平泳ぎ、クロールなどの真似をして身体を動かしましょう。また、何秒息が止められるか「よーいどん」の合図でみんなで競争しましょう。				
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保：「ピッピッピッピッ、ただいまより第1回パレット水泳大会を行います」と、元気よく登場。</li> </ul>				教材
<b>活動内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講：「水泳大会！と、言うことは皆で泳ぐんだね。楽しそう！みんなでがんばろう！！」等で盛り上げて始める。</li> <li>「まずは準備運動です」等で安全面に配慮しながらクラスの様子に合わせて行う。</li> <li>「それでは第1の競技！犬かき競争です！だれが一番上手かな」等で、平泳ぎ・クロールも同様に行い楽しむ。</li> <li>上手な子がいたら前に出てきて発表するのもよい</li> <li>息とめ競争は何秒止められるか、誰が一番長いかな等、安全面に配慮しながらクラスの様子に合わせて行う。</li> <li>賞賛して終了する。</li> </ul>				保育士の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>開会宣言をする</li> <li>一緒に楽しむ</li> <li>子どものフォロー</li> <li>賞賛</li> </ul>

<b>数子ヤレ</b>		<b>ねらい</b>	<b>数</b>	5個の操作ができる	教材
<b>設問</b>	7対6どちらが多い？ おはじきを使い5個の操作をしましょう。				おはじき 皿
<b>活動内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今月は5個の操作です。お皿に4個（3個）入れておき、あと何個入れたら5個になるか、別のお皿（数個入っている）そこから1個取り4個（3個）のお皿に入れて5個になったか数える。（難易度を上げるようであれば3個にする。）</li> </ul>				保育士の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>皿の提示</li> <li>子どものフォロー</li> <li>賞賛</li> </ul>

